



◎ 12月10日は「人権デー (Human Rights Day)」知ってますか？

昭和23年(1948年)12月10日、国際連合第3回総会で「世界人権宣言」が採択されました。世界人権宣言は、基本的人権の尊重の原則を定めたものであり、人権保障の目標や基準を始めて国際的に制定したものです。法務省では人権デーを最終日とする12月4日～12月10日の1週間を「人権週間」と定め、いじめや虐待、性被害等のこどもの人権問題、インターネット上の人権侵害、障がいのある人や外国人、性的マイノリティ等に対する偏見や差別、部落差別、ハンセン病問題といった多様な人権問題が依然と存在している現状について正しく知って、解決するにはどうしたらよいかをみんなにしっかりと考えてもらう啓発をしています。

桜台中学校でも、12月には1年生は車いすユーザーの方にきていただいて障がい者理解学習を、2年生は修学旅行を見据えて沖縄戦を含む平和学習、3年生はドーン財団から講師の方にきていただいてデートDV予防啓発として男女共生教育を予定しています。また、3学期には1,2年生がLGBTQ理解学習、3年生が部落問題学習を予定しています。中学校3年間を通して、さまざまな人権問題について正しい知識を学んで、考える機会を設けています。

『これらの解決には、私たち一人一人が様々な人権問題を、自分以外の「誰か」のことでなく、自分のこととして捉え、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて、認識を深めることが不可欠です。』(法務省HPより)

これからの未来を生きていくみなさんには、しっかりと受け止めてほしい言葉です。

◎ 12月1日(日)関西テレビで中学生人権作文コンテスト表彰式

1年生の岩本彩音さんが書いた人権作文が大阪法務局と大阪府人権擁護委員連合会主催の第71回中学生人権作文コンテストで最優秀賞(大阪私立中学校高等学校連合会長賞)に選ばれ、関西テレビのスタジオで表彰式がありました。最優秀賞6編をそれぞれが朗読をした様子が後日放映される予定です。

◎ 11月20日(水)グランドホールで税の作文コンテスト表彰式

全国納税貯蓄組合主催の中学生「税についての作文」コンテストで、3年生の米田百さんが大阪府泉南府税事務所所長賞を、同じく3年生の道幸美羽さんが近畿税理士会岸和田支部長賞を受賞しました。(以下、3名の作文を紹介します)

障害を持つ母

岸和田市立桜台中学校

「障害者」とは、私にとっては、なじみ深い言葉である。母は、左手、両足に障害がある。他に内臓にもあるようだが、詳しくは知らない。母に障害があると気付いたのは、つい最近のことだ。それまでは、祖母や祖父に「ママは身体が悪いから、重いものが持てないから抱つことかできない時もあるけど、ママのこと守ってあげてね。」と言われるくらいで、他人事のように考えていた。

昨年の夏を過ぎた頃から、母の体の動きが悪くなり、呼吸もし辛い状態になり、病院で検査検査の日々が続いた。結果は持病の頸椎症という病気であった。正確にはもう少し長い病名であった気もするが、要は頸椎の神経を傷つけて様々なところに障害が出る病気であった。再発を繰り返す病気であり、すでに私を産む前に2回手術を受けており、やけに病氣や薬に詳しいのはそのせいかと感心した。よくよく考えてみると家の扉は全て引き戸になっており、いつでも車椅子生活になれる家だと自慢していた事

を思い出した。

私の中での「障害のある人」は少々暗めのイメージがあったのだが、母を見る限り、とても楽しく過ごしている。そんなに積極的に車椅子になる事を受け入れ、自慢できものかなと思うが、当の母は、歩けることの方が奇跡と言い放つ。よくよく考えてばかりだが、いつも歩けると思うなよ。目が見えると思うなよ。声が聞こえると思うなよ。言葉が話せると思うなよ。と言われ続けてきた。何でも当たり前だと思ふなよ。というのが母の口ぐせのような気がする。「だから、言える時にありがともごめんさいいも言っておいた方が良い。」と母は言う。

命も当たり前にあるわけではなく限りあるものだから、ちゃんと今ある今日をしっかりと生きなさいと言う。母の自己紹介のよくな作文になってしまっているが、障害がある人にも色々な種類があり、命に関わる人、命に別状のない人、様々であって、一括りであろうしてあげた方が良いというのはないのかもしれないが、「私の為に、何かしてあげようとしてくれた気持ち嬉しい。」と母は言う。杖で歩いている時に扉を開けてくれた学生さんに「日本もまだ捨てたもんじゃない。」といつもご満悦の母。とてつもなく大

きな力が働いてちっばけな人間がどうやっても太刀打ちできないのが人の命であったり病氣である。どうあがいても変える事ができないのが運命だとしても、その事をどう受け止め、どう感じ、どう生きるかは自分で決められる気がする。

ここまで明るく人生楽しそうに、杖をつき、車椅子に座り、固まった手足に「痛い痛い」と言いつつも「もう少しがんばれば私の手足。」と自分の手足を励ましている母を見ると、動ける私は、動ける間に色々なことをしておきたいと思う。当たり前にある命でもなく、当たり前に動ける身体ではないことを知っているの、動いている今日は母でいたい。そして自分の命と同様に健常者も障害者も今ある今日をしっかりと生きられるように努めたい。

ここまで明るく生きることができるようになるまで、私の知らない痛みや辛さや葛藤があったんだと思う。しかし、これだけキラキラ生きることを楽しむことができるよう母を支えてくれ、関わってくれた全ての人に感謝したい。どんな「人権」も全ては人と人との思いやりから始まるものだと思う。

近くて遠い税金について考えたこと

岸和田市立桜台中学校

税とは私にとって身近な存在であり、遠い存在でした。本当は身近なはずなのに、気がつきにくいので遠くなるのかもしれない。私が初めて税の使い道を知ったのは、小学校一年生の時でした。配られた教科書を興味津々で読んでいたときです。私の目にある文章が飛びこんできました。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」教科書の裏表紙にありました。私はどういう意味だろう、と身近な人に聞いてまわりました。そこで税についてぼんやりとだけけれども知りませんでした。それから年が経ち、私が六年生の時です。私は、社会の授業で義務と権利について学びました。そして国民には税を納める義務があることも学びました。そこ

で私は考えました。きっと、大人になれば自分で税を納めなければいけない。税を納めるにも、生活するにも、お金が必要だ。お金を得るには働かないといけない。働いて十分なお金を得るには知識が必要だ。そして今、私は税金で勉強している。その私も将来、税金を納める。その税金は次へつながる。さらに私は教育だけでなく医療や子育て、年金など様々な場所や人に使われていることも思い出しました。税金を払うためにもやらなきゃいけないこともたくさんある。けれども税金はめぐりめぐって人や自分身の生活を豊かにする。安心して生活ができる環境につながる。だから税金は必要なかと考えました。

中学生になり、様々なニュースや問題を目にするが多くなりました。制度の導入について、税金について、借金について、これからの日本について、……。税金の負担はこれからもっと増えるという情報も見たり聞いたりします。これからは生きる側として嬉しいとは言えない情報です。けれども税金を減らしたり無

くせば生活の豊かさが減るどころか、安心して日々を過ごすことができなくなるかもしれない。逆に増やすとその分必要なお金が増えるので生活が苦しくなると思います。このバランスや問題について私にはまだ、どうすればよいかわかりません。でも、わからないなりに税について、これからについてもっと考えたりたいと思います。

税は私にとって、今も身近で遠い存在です。もっと身近な存在になるように税についてもっともっとたくさん知りたいです。

私たちの健康と税

岸和田市立桜台中学校

私は、今まで特に税についての知識はなく、物を買う時に消費税が余分にかかるところに対して損をした気分になっていました。しかし、今回税について調べることで税に対しての考え方が変わりました。

私は、産まれた時から先天性の病気があり病院へ通うことが多く入院も数回してきました。しかし、入院も通院も、治療費は月に支払う費用が限られているため、よく母親が助かっていると言っていました。私は当たり前だに思っていたのですが調べてみると海外では日本と異なり気軽に病院受診ができない国があることを知りました。例えばイギリスでは、患者ごとに決められた医師にまず受診しなければなりません。医療サービスは税金で運営され原則として無料ですが、緊急

でなければ2〜3週間以上待たされることもあるようです。また、ベトナムでは医療費を前払いしないと入院できません。アメリカでは、公的医療保険は、65歳以上の高齢者と障害者、低所得者のみで、この対象にならない現役世代は民間医療保険に入る必要があるが保険料が高額で所得により、無保険者も多くその場合、自己負担で医療費を支払う必要があります。経済的な理由で医療を受けられない人も多く医療格差が問題となっています。

私たちは、病気やケガをしたら、自由に病院を受診し必要な治療を受けることもできるし、小さい頃から、予防接種を受け病気の予防もできています。これらには全て税金が使われていることを知り、私たちの健康、命は税金で守られているのだと思いました。

しかし、日本でも医療における問題を抱えていました。これからの日本では高齢化による医療や介護に対する需要の増大、少子化による、労働人口の減少、これに伴う医療保険制度の財政悪化により、医療体制の維持がより難しい状況になる

と考えられています。これからも、誰もが健康で豊かな生活を送れるためには、まずこの社会問題や税金の必要性、どのように利用されているのかを理解しておく必要があると思います。私が住んでいる地域でも、子育て、介護、医療などの支援が充実すれば安心して住みやすい地域になると思う。

今回の学びを通して、私たちも視野を広げて自分に何かできることはないか考える必要があると感じた。そして、税金は私たちにとって、欠かせないものであることを学びました。